

山間部における気候変動や防災・減災の視点からの海洋教育の展開

福島県只見町立朝日小学校
教諭 大西賢児（本年度研修主任）

1 各種講演を聞いて、地球温暖化に対する意識を高める契機としたりキーワードを得たりする

- ・昨年度は9月にケンタロ・オノ氏の講演により、地球温暖化が海水面の上昇を引き起こし、すでに実効的な被害がキリバスに出ていることを知る。また、地球温暖化の要因になるいくつかの身近な事象についても聞き、自分達の行動でこの現状を変えていくことができる可能性を感じる事ができた（図 1a, 1b）。



図1a ケンタロ・オノ氏による講演の様子



図1b ケンタロ・オノ氏による講演の様子

- ・10月末には海洋教育学習会を東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターの先生方とリモート会議形式で行った。3人の先生方から、只見と海のつながりや只見と雪の関係、地球温暖化に起因する諸問題などについてお話をいただいた。「只見は水循環遺産」「只見は環境のカナリア」など、今まで意識したことがなかった視点でキーワードが出る中、温暖化は水の循環に異常を生じさせることであり、その影響が顕著にでる地域が只見であるということ、言い換えれば温暖化の最前線に只見がいるのだということを知った子供たちは、自分たちの故郷を守り、ひいては日本・世界・この地球を守る事ができる最前線にいると感じることができた（図 2a, 2b）。



図2a 海洋学習会（オンライン）

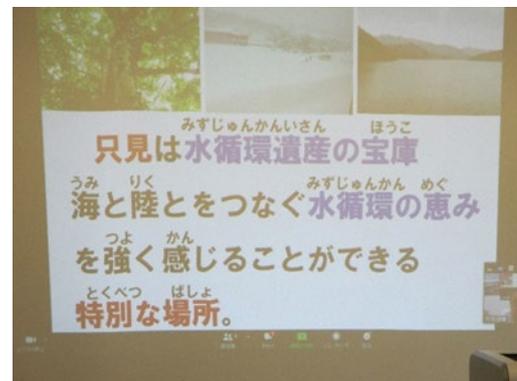


図2b 海洋学習会スライドの一部

- ・今年度は9月8日に「環境スタート事業」の一環として、気象庁福島地方气象台調査官 清野 博樹先生をお招きして『地球温暖化の基礎知識、地球温暖化に伴う日本・福島県の気候の変化、今私たちができることは何か』について講演いただく予定である。(コロナ対策により期日順延中)

総合的な学習の時間における学びの中心として

- ・5年生は「只見の農業」を調べる中で、農家の方々から異常気象による作物への影響を聞くことができた。只見に限らず地球温暖化の影響は各地に現れていることを調べ、「このまま異常気象を引き起こす地球温暖化が進行すれば、只見の農業にも大きな影響が出てしまう」→「只見の農業を守るためには原因となる地球温暖化を防がなければならない」→「そのためにできることを考えて発信しよう」という流れで学習を進めていった(図3a, 3b)。



図3a 農家の方から学ぶ様子



図3b 農家の方から学ぶ様子

- ・6年生は「只見町の発展」という視点で、町の抱える課題を探った。この中で、平成23年の豪雨による水害の被害と、その原因が地球温暖化に起因する降水量の増加にあることを役場の方へのインタビューによって知ることができた。同様の被害が出ないように治水工事を各地で進める町の施策を理解する一方で、ユネスコエコパークとして自然を守るという意識で考えた時に、安易に治水を進めて自然破壊の形になることへの問題も話し合うことができた。治水に頼ることは対症的な対応であることを考えたとき、根本的な解決には、地球温暖化の原因となることを、日常生活の中で改善していくことが大切であるとまとめ、対外的に発表することができた(図4, 5)。



図4 役場の方へインタビュー調査



図5 発表会の様子